

Weekly コラム

令和6年1月16日

〒541-0055 大阪府中央区船場中央 2-1

船場センタービル 4号館 4階

船場経済倶楽部

Tel 06-6261-8000

(NPO 法人 SKC 企業振興連盟協議会)

Fax 06-6261-6539

人の輪・衆智・繁栄

活動方針



当団体は、異なる業種の経営者が相集い、力を合わせ、自らの研鑽と親睦を通じて、斬新な経営感覚と新たな販売促進を創造して、メンバー同士でより健全な事業所とその事業所のイメージアップを図り、地域社会に貢献できる事業所となることを目的とする。

日の丸半導体の復活

AIブームと言えば、最近よく耳にする ChatGPT ですが、このAIツールを開発するための半導体を提供している米国企業 NVIDIA(エヌビディア)が時価総額約1兆ドル(約140兆円)に迫る快進撃となっています。時価総額が1兆ドルを超えている企業は、アップル、マイクロソフト、アルファベット、アマゾンの4社のみで、エヌビディアは5位の約9630億ドルで、株価は160%以上の上昇となっています。

昨年5/24(水)引け後に発表された第1四半期(2~4月期)の決算速報では、売上高71.9億ドル(前期比+19%)、5~7月期の売上見通しが110億ドル±2%(予想71.8億ドル)と市場予想を大幅に上回るガイダンスを発表し、時間外取引で株価は24.7%急騰の380.80ドルとなりました。

エヌビディアは1993年に設立され、当初はパソコン用ゲーム機のグラフィックス処理を補助するGPUカードの製造に始まりました。今ではディープラーニング(深層学習)AIにも利用されており、AI業界ではエヌビディアは独走状態で、市場の80%の生成AIはエヌビディアのチップを使って多くのデータを学習しています。3月にはマイクロソフトと提携を発表し、更にイーロン・マスクが人工知能(AI)に特化した新会社X.AIもエヌビディアに発注しています。

一方、1980年代末に世界の半導体売上高シェアで50%を超えていた日本ですが、現在では米国、台湾、韓国の後塵を拝しています。

一口に半導体と言っても、設計と製造に工程が分かれています。話題のエヌビディアは設計、日本は設計では衰退してしまいましたが、製造では健闘しています。以下に関連する日本企業を一部ご紹介しますので、ご関心のある方は個別銘柄をチェックしていただければと思います。エヌビディアの様にテンバガー(10倍)銘柄候補を探し出すつもりで日本市場を見てみるのも一興です。

- ・シリコンウェハメーカー(信越化学、SUMCO)
- ・酸化拡散装置メーカー(東京エレクトロン、KOKU SAI ELECTRIC、大倉電気)
- ・レジストメーカー(東京応化、JSR)
- ・露光メーカー(ニコン、キャノン)
- ・ドライエッチング装置(芝浦メカトロニクス)
- ・CMP装置(荏原製材所)
- ・超純水メーカー(栗田工業、オルガノ)
- ・ブローバーメーカー(ティアテック、東京精密)
- ・テスター(アドバンテスト、テセック)



記事の内容に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。

ウィークリーはメールでの配信も行っております。お手数ですが、「メール希望」・「配信停止希望」と件名にご入力の上、

skc-soudan@skc.ne.jp まで空メールをご送信ください。また、FAX ご不要の際は、その旨をお電話にてお申しつけください。